

下水道事業

～法適化後の令和2年度当初予算について～

目次

1. 令和2年度当初予算概要について
2. 下水道事業の貸借対照表について

1. 令和2年度当初予算概要について

(1) 主な実施事業

①新設・拡張

- ・リニア開業に向けた下水道整備（令和7年度まで）
坂本下水道整備工事 2億3千1百万円
青木斧戸線整備に伴う中津地区下水道整備工事 3千6百万円

②施設長寿命化対策事業

- ・ストックマネジメント計画策定 1千7百万円
- ・工業団地排水管補修 2千3百万円
- ・蛭川南部処理場改築更新 4千2百万円

1. 令和2年度当初予算概要について

(2) 収益的収支（税込み）

収益的収支とは、下水道事業の一事業年度における経営活動に伴って発生するすべての収益と費用のことです。この収支が1年間の損益に反映します。

収入（総額33億4,605万円）

収支差引 1億7,251万円の赤字



現金収入

支出（総額35億1,856万円）



減価償却費と長期前受金戻入は現金収支ではないため、収益的収支は損益としては赤字であるが、現金は緑の矢印で示した分だけ増える。10億4,353万円

現金支出

借入金の支払利息3億5,065万円

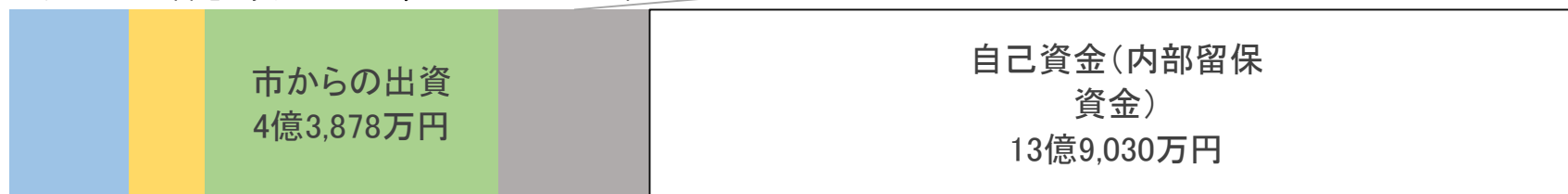
公営企業法適用に伴う引当金等 1億6,577万円

その他 7,683万円

(3) 資本的収支（税込み）

資本的収支とは設備投資に係る予算です。

収入（総額9億5,340万円）



支出に対する不足額は、旧下水道4事業からの引継金や令和2年度損益勘定留保資金等（4ページの緑の矢印で示した10億4353万円）が充てられます。

支出（総額23億4,370万円）



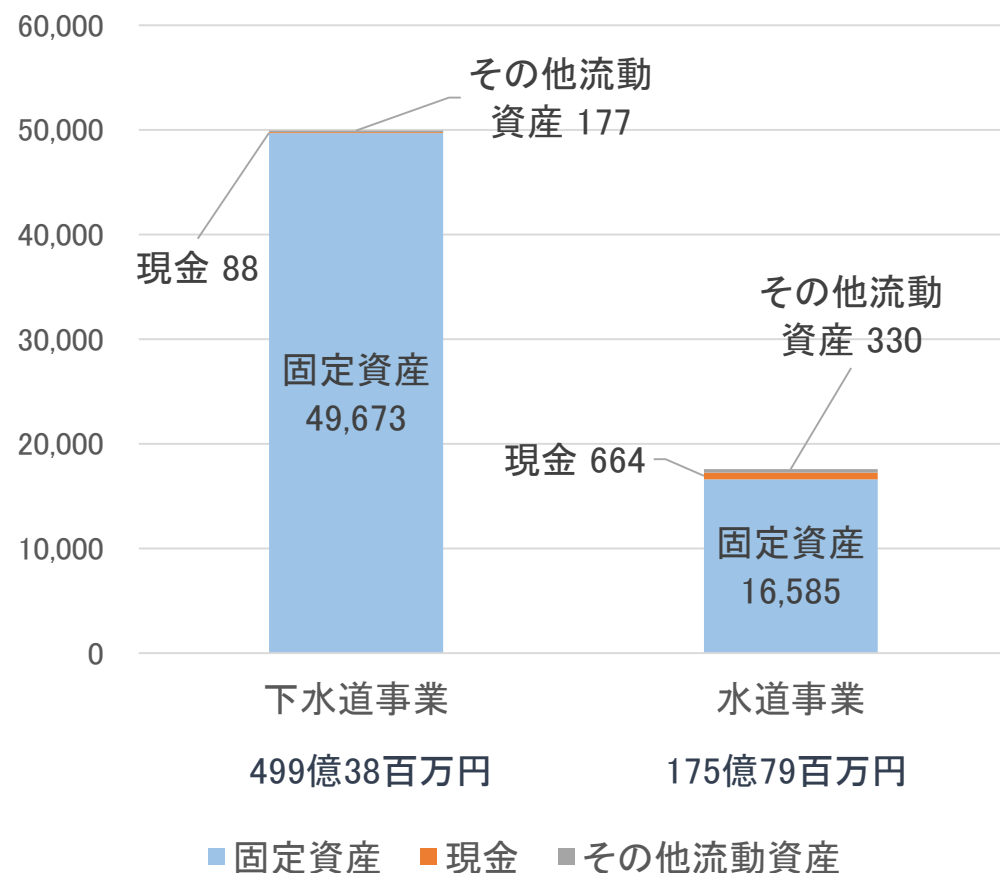
その他 461万円

収益的収支、資本的収支でお示した予算が全て執行された場合、令和2年度末（令和3年3月31日）時点での下水道事業会計の現金預金残高は8千861万円を見込んでおります。

2. 下水道事業の貸借対照表について

年度末（令和3年3月31日）時点の財務状態を示します。

資産の部（単位：百万円）

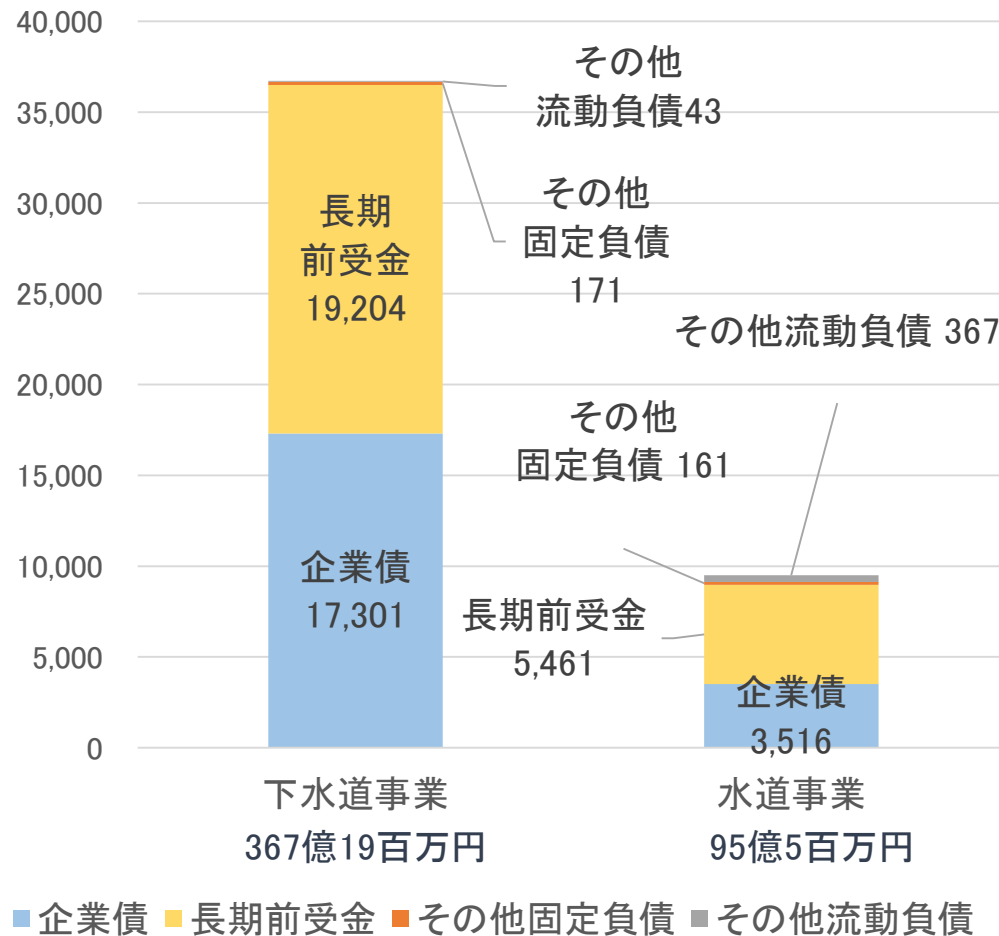


・ 下水道事業では固定資産が496億7千3百万円あります。水道事業と比較して、約3倍の規模です。

・ 現金は8千8百万円と1/8程度となっており、水道事業と比較して資金的な余裕が少ない状況が分かります。

※参考として水道事業と比較しています。

負債の部（単位：百万円）

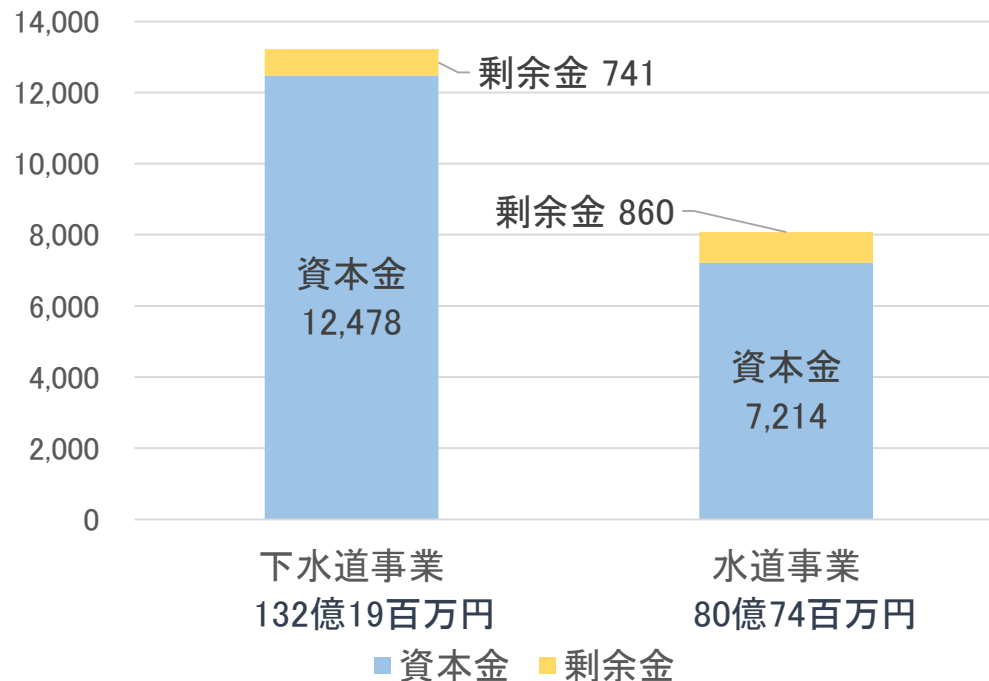


・ 企業債残高は173億1百万円です。水道事業と比較して、約5倍の規模です。

・ 企業債のうち、1年以内に償還する必要がある企業債（流動負債）は18億8百万円となります。

・ 長期前受金は固定資産取得時の財源である補助金等。今後、収益的収入で減価償却費の財源として少しずつ収益に計上されていきます。

資本の部（単位：百万円）



・ 固定資産の取得に充てた自己資金等が資本金や剰余金に計上されています。

令和2年度当初予算と年度末の貸借対照表から次の点が課題として浮かびあがります。

年度末時点で保有する現金が88百万円ほどの予定に対して、企業債元利償還金や施設のランニングコストとして固定的な費用の支払が今後も継続するため、資金ショートしないように令和3年度以降は計画的な資金の確保が必要となります。